

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(226)

## コロナの教訓

早期の実態把握や被害低減、そして迅速な復旧に貢献することが期待される。経済協力開発機構(OECD)は、今回のパンデミック(世界的大流行)への対応に際して、各国に対する各国の取り組みから将来の危機対応への教訓を得るため、「危機時の科学動向の自動化やリモート化」をテーマとする調査を行うことを通じて、危機時でも「迅速に実施する」最後に、このような

## 将来への備え

その主な内容として、

早期の実態把握や被害低減、そして迅速な復旧に貢献することが期待される。経済協力開発機構(OECD)は、今回のパンデミック(世界的大流行)への対応に際して、各国に対する各国の取り組みから将来の危機対応への教訓を得るため、「危機時の科学動向の自動化やリモート化」をテーマとする調査を行うことを通じて、危機時でも「迅速に実施する」最後に、このような

った。23年7月に、その研究開発を行えるよう仕組みが必要になる。の結果を踏まえた提言にする。また、危機時の3巻の報告書としての研究インフラ運用、ナウイルス感染症対策を公表している(図)。研究協力や産学連携のアドバイザリーボードの方針をあらかじめ定め、政策や対策の立案に専門家の持つ知見を活用する科学的助言の機能も強化すべきである。また、科学的知見に基づく対策が受け入れられるには、人々の理解と納得を得るためのコミュニケーションも重要である。

た。23年7月に、その研究開発を行えるよう仕組みが必要になる。の結果を踏まえた提言にする。また、危機時の3巻の報告書としての研究インフラ運用、ナウイルス感染症対策を公表している(図)。研究協力や産学連携のアドバイザリーボードの方針をあらかじめ定め、政策や対策の立案に専門家の持つ知見を活用する科学的助言の機能も強化すべきである。また、科学的知見に基づく対策が受け入れられるには、人々の理解と納得を得るためのコミュニケーションも重要である。

# 危機対応と科学技術



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター フェロー(科学技術イノベーション政策ユニット) 小山田 和仁

東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。産業技術総合研究所、政策研究大学院大学などにて政策研究に従事。17年より現職。OECD「危機時の科学動向」新型コロナウイルスパンデミックからの教訓」プロジェクトにも参画。

## 将来の危機対応に科学技術を活かすための提言

### 1. 危機に強い研究開発システム

第1巻「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と科学のための政策」

- 危機時におけるデータと情報へのアクセス
- 研究インフラ(設備・施設)
- 産学連携の活用

### 2. 危機時の政策に科学技術を活用する仕組み

第2巻「COVID-19と政策及び社会のための科学」

- 研究の優先順位設定と調整(迅速なニュースの反映)
- 危機時の科学的助言
- 市民・社会コミュニケーションと参画

### 3. 組織や研究分野の壁を越えた横断的調整と連携

第3巻「COVID-19、強靱性と科学・政策・社会の接点」(※日本語仮訳版をCRDSより近日公表予定)

- 科学的能力の機動的かつ戦略的な動員
- 優先順位の決定と調整
- 制度の壁を横断する調整と協力
- 学際共創的かつ省察的科学
- ダイナミックかつシステム志向のガバナンス

(OECD「危機時の科学動向」報告書より)

取り組みを、組織や研究分野の壁を越えた横断的調整と連携による。刻々と変化している。状況を、科学的知見やデータを踏まえて把握し、機動的に対応するための仕組みや組織づくりを平時から取り組むことが求められる。

わが国でも23年9月に、内閣感染症危機管理統括庁が発足し、将来の感染症危機に対する政府行動計画の見直しを行っている。コロナ危機からの教訓を、将来の新たな危機への備えとしてどう具体化していくかが問われている。

(金曜日に掲載)